

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	<h1>会 報 第 186 号</h1>	2017年1月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠
---------------------------	----------------------	--

1. 年頭のあいさつ (会長 原田賢治 記)

新年明けましてお目出度うございます。

会員の皆様には、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は、新体制の基で会の運営、維持活動等にご協力をいただき誠にありがとうございました。

一年を振り返り環境学習面では、

- ・維持活動の推進、環境整備とエコアップ
- ・子ども達と共同作業

稲づくり体験…田植え、稲刈り、ハゼ掛け、収穫祭

※出穂期の害虫駆除…厚東川中学生によるイナゴの駆除と雑草とり

- ・親子自然観察隊

野鳥の観察、水棲動物の生息状態観察、里山の暮らし（昔の道具を使って穀物の加工等）

- ・二俣瀬小学校生徒

野外環境学習の場として3回利用

- ・宇部環境コミュニティー主催

第8回環境サロン開催

現地研修の後、二俣瀬ふれあいセンターに於いてフリートーキング

①保全活動を通して学んだこと

②ビオトープを維持するため自分に出来ること

今後も環境学習の場として、多くの皆さんに利用していただくように努めましょう。

収穫祭は、天候にも恵まれ、多数の来賓各位のご出席を賜わり盛大に取り行うことができました。

今年は、各地で食中毒が取り沙汰される中、細心の注意を払って準備をしていただき、おかげ様で無事終了いたしました。ありがとうございました。

今後とも、「里山ビオトープ二俣瀬」の推進に当り皆様方の更なるご指導・ご協力をお願いいたします。

皆様方のご健勝を祈念し、年頭のあいさつとします。

2. 活動報告 (事務局 記)

—1月21日(土) 本年初の現場活動を実施いたしました。参加者は12名でした。

作業内容は以下の通りです。

- ①湿地帯のエコアップ：湿地帯中央部南側でスゲ等を除去しました
- ②放置除去草の撤去：遊歩道周辺に積み上げられていた除去草を撤去しました
- ③U字溝の搬入：橋架け替え(ため池)に用いるU字溝を搬入しました

また、作業前に橋架け替え費用の取り扱いについて協議しました。

3. 今後の予定（事務局 記）

◎来訪者

予定はありません

◎行 事

—2月5日（日）維持活動（エコアップ、修復作業）

—2月18日（土）維持活動（修復作業）

4. 来訪者の声

今月はありません。

5. 会員の声-「 」 （ 記 ）

今月はありません。

6. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

(13) ヨドシロヘリハンミョウ *Callytron inspecularis* W. Horn (絶滅危惧ⅠA類)

コウチュウ目 ハンミョウ科

環境省ランク (絶滅危惧Ⅱ類)

ハンミョウ (ナミハンミョウ) に比べ地味な色をしています。年1回発生し、6月下旬ごろより8月中旬ごろまで見られます。体長12mmほどの中型のハンミョウで上翅の縁側、翅端に白い帯があります。干潟が出現する河川で、河口付近に背の低い植物がまばらに生えているような水辺に生息しています。また、川床地盤は砂分の多い粘土質で、足を踏み入れてもそれほどめりこまない比較的に締まった土質を好むようです。幼虫の棲む穴は満潮時には完全に水没しますが、フタをすることにより水の浸入を防ぎ、溺死することはないようです。本州と四国、九州で見られますが、本州で確実にみられるのは山口県だけのようです。本州、四国ではいずれも瀬戸内海側で見つかっています。山口県では佐波川、厚東川、厚狭川の3か所で確認されています。厚狭川では筆者が発見しましたが、1個体しか発見できておらず、数も少なく今後の課題です。



ヨドシロヘリハンミョウの生息環境



ナミハンミョウ



ヨドシロヘリハンミョウ

7. 会よりの連絡事項

1. 1月の活動には、会員12名で作業しましたが、2・3月の作業は修復作業もあり、多くの方の参加が望まれます。4月以降は、親子自然観察隊も始まり、草も伸びてきますので、作業は主に草刈りに追われます。寒い時ですが、ぜひ時間の都合をつけて頂いて活動に参加願います。

8. 編集後記

平成29年、又新しい年を迎えた。前日、明日は雪が降るのではと心配をよそにいい天気になった。湿地帯一面を覆う、しぶとく複雑に絡み合った根に手こずらせるスゲの除去作業、追いつかない。あちら、こちら傷んだ散策道、これも修理追いつかない。新しく架け替える橋、当分傷まないように造りかえる為のU字溝の搬入。軽トラでの積み降ろしにも力の弱りにため息をつき、声かけ合って頑張る。今年もこのような作業始めて動き出した。固まりになったカエルの卵がたくさん生まれている。少しでも多くの生き物が生息出来る環境になればと、今年も元気な人もそうでない人もそれなりにみんな楽しく見守っていきたいと思う作業始めだった。

(松本 フデ子 記)